

# 園長だより NO64

進級、入園から1カ月が経ち、子ども達の生活も安定に向かっています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念され、県内の4市にまん延防止などの重点措置が講じられました。鎌ヶ谷市も措置地域と隣接するため今後の動向を注視しなくてはなりません。

保育園は感染防止対策を行いながら引き続き通常通り開園していきます。これからゴールデンウィークに入りますが不要不急の外出は避け、健康の管理に再度意識して生活して下さい。

## 自然の中で育つ子ども達と土との出会い

まずはお母さん、お父さんに毎日の洗濯に心からありがとうございます。家庭生活においては毎日の洗濯は当たり前のことですが、子ども達が小さい頃は洗濯の山、何回、洗濯機を回せばいいのか、衣類にしみ込んだ泥汚れは手洗いで対応、ただでさえ忙しい毎日が保育園の汚れ物の持ち帰りです。

子ども達は親の心知らず、容赦なく汚す、ただ、この時期も数年、今、遊びの中で様々な体験が子ども達のより良い育ちに繋がります。大人の手をわずらわせている子ども達は毎日、元気にいきいきと自分(自分たち)のしたいことを見つけ主体的に遊んでいるのです。

先に「汚れ物」と言ったが「遊んできた証」と見かたを変えてみれば我が子はしっかりと自分を持ち、遊びの中で人として生きていくための学びをしているんだと思えるようになる。

少々、無責任なことを書いているが昔の人は「子どもの仕事は遊び」真っ黒になり遊んで帰ってきたら、鯛のお頭つきで祝おうなどと粋なことを言っていた。

※ただ、度を超すとげんこの1,2発は愛情たっぷりにいただいたものだった。

これからの季節、泥んこ遊びが盛んにおこなわれる時期になる。(通年やっているのだから…)

私は「どろんこ遊び」を「どろんこ遊び」と言い換える。土と戯れながら、夢中になって遊び、熱中し時間の経過も忘れる。気がつけばもうお昼ご飯といくこともしばしば見えました。

どろんこになることが子ども達のもっとも自然な姿であり、常態(平常の状態)と考える。

土は子ども達にとっては本来、身近な遊び相手であった、現在は世の中が変わり、様々な玩具が氾濫し、視覚からの刺激が多くあり、土と戯れ遊ぶ機会が薄れてきた。

昔を懐かしんだり、古き良き時代だったと回想するだけではいけない。本来、子ども達に必要な遊びであるものをせめて保育園では保障してあげたいと常に思っている。

裸足になり駆け回り、穴を掘り、水を流し川を作り、泥団子をつくり、ひよんなことから手に塗り、足に塗り、泥を身体にはねつけ、遊んでいる。

時には大きな、大きな画用紙になり絵を描く子どももいる。大きくなると陣取りや石けり



なども行われ土(地面)を有効に活用する。土は子ども達にとって都合の良い素材であり、創造的な要素を秘めているものです。

## 時代の変化とともに

時代の変化と共に街中は開発され、土の道など皆無になった。砂利道も見かけなくなってきた、舗装された道路がひかれ、どこにいてもその道は繋がっている。

公園も整備され、砂場も平凡な存在と化している。現在の公園で水を使い、派手に遊び始めるとたちまち、非難の嵐に見舞われる。親のしつけがなっていない。公園はルールがあるのでと言われる。

時々自宅近くの公園をのぞくことがあるが実におしとやかに公共の砂場を使っている。「仲良くあそぶのよ」「迷惑かけないのよ」「道具はお友達に貸してあげるのよ」等々子ども達に多くの注文をしている親に出会うことが多い、楽しいはずの砂場での遊びがすでに始める前に子ども達は委縮している。初めて会う親同士であったら尚更、楽しさが半減してしまう。まれに意気投合する親に出会うこともあるが子ども達の本来の姿はあまり見ることはない。

保育園や幼稚園でも良く見かける光景がある。わいわいとどろんこになって遊んでいる傍らで立ち尽くす子ども達がいるという。心の中は「あそびたい」で埋め尽くされている。

傍らで見ている子どもに問うと「お母さんに汚してはダメと言われた」と言う。最近はこの傾向が急上昇している。

子ども達の自発的な行為をすでに家庭で打ち消されてしまっている。

おもしろそう、やりたいな やってみたい、わくわくする気持ちが消されている。

子ども達の生活する場はいわば子ども達の自治区であると置き換えられる。できるだけ自分がやりたいな、自分達でやりたいなと思うことがあれば取り組ませてあげることが大切である。ただ関わる大人は放任ではいけない、子ども達が自発的なアクションをとったのならば子どもの姿を理解し心情を察し、その遊び(活動)を保障できる環境を作り維持することが必須である。

近年、与えられたもので遊ぶことに慣れている子ども達が多くいることも事実です。与えられた環境、与えられた玩具、決められたプロセスで取り組むことに慣れしまう。

子どもなりに自分で判断し選択し遊ぶことの機会が削がれている。

せめてこの乳幼児期に子ども達が夢中、そして熱中できるあそびを保育園ではやらせてあげたい。

その一つに土との出会いがある。ふれあい、時には戯れ、時には大胆に格闘する遊びである。これは今もこれからの未来にもつなげていきたい遊びだと思っています。

毎日どろんこ遊びばかりでいったい何が育っているのだろうかと心配される人もいることでしょう。今後、遊びや子どもの織り成す表現について取り上げて相互の理解につなげたいと思っています。(園長 廣部信隆)